

『人間の探求』 ～ 小さなことに大きな愛を込める ～

2025 年 7 月 28 日 羽田空港から Detroit 空港を経由して、娘家族の住むアメリカ合衆国ミシガン州の Grand Rapids 空港に赴いた。Wife は先に訪米しており、ペンシルベニア州に住む wife の姉夫妻も到着されていた。筆者は、『ミシガン湖(Lake Michigan)』(画像)の『日の出 と 夕焼け』(画像)も眺めた。

帰国後 8 月 2 日は、早稲田大学エクステンションセンター(早稲田校)での講座【『がんと生きる哲学』～『ジャンル 人間の探求：テキスト：樋野興夫著『新渡戸稲造(1862-1933) (画像)壁を破る言葉：逆境に立ち向かう者へ 40 のメッセージ』 (三笠書房)】を担当した。下記を受講者に音読して頂きながら進めた。

1 章 12 節『礼節を持って賢く生き抜く』：他人を尊敬する念は、誰の心中にも必ず潜んでいて、また少し注意すれば、どんな人に対しても、必ず尊敬すべき理由を発見し得るものである。いやしくも自らを重んじる人は、必ず他人を尊敬する。もしその念がない人があるとすれば、その人に自重心がないという欠陥を自白するようなものである。『世渡りの道』

2 章 13 節『立ち止まることも勇気である』：勇気を修養する人は、進むほうの勇ばかりでなく、退しりぞいて守るほうの沈勇もまた養うように心がけなければならない。両者がそろってこそ、真の勇気が得られる。『修養』

2 章 14 節『“無頓着” ほど強いものはない』：青年はその特性としてシンプル（淡白）でなければならない。自然に従い、あけっぱなしで、すねたところがなく、すらすらとして、少しのひがみもないことが必要だ。いわば心がシンプルなのである。真の青年は、名誉とか立身とか、つまらぬ小欲がない。もし欲があるとすれば、それは大欲である。したがって人に追従をいってご機嫌を取ろうともしなければ、また秘密にすることもないから、なんらわだかまることがない。『修養』

その後、国立がん研究センター築地キャンパス 研究棟での【Japan Cancer Forum 2025】に向かった。『個人面談』の機会が与えられた。終了後、参加者と夕食の時をもった。【『アルプスの少女ハイジ』の現代的意義：喜んで無邪気に 小さなことに大きな愛を込める】で 大いに話しが盛り上がった。

